実施後に学生、教職員で振り返りを行い、参加者の待ち時間を短縮するため午前と午後の2 回実施すること、血圧は担当者を増やし手動血圧計を用いより正確に測定すること、各部署で留意点などの手順書を作成することが決定した。

アンケートを実施した結果 47 名（回収率 94%）から回答を得た。回答者の概要は、男性 14 名（29.8%）、女性 33 名（70.2%）、70 歳代 25 名（53.2%）、80 歳代 12 名（25.5）であた。体験会を知ったきっかけは、地域の会合 24 名（51.1%）、友人・知人の紹介 12（25.5%）であった。体験会が「良かった」は 36 名（76.6%）、「未回答」10 名（21.3%）、「どちらとも言えない」1 名（2.1%）であった。意見としては、「迷っていましたが伺って本当に良かったです。是非、次回を開催していただきたく願っています」、「楽しかったです」という前向きな意見が述べられたが、「ちょっと混みすぎでした」、「順番を胸に付けると良いと思う」などの意見も示された。

＜12 月 21 日（日）＞

9 月の実施後の振り返りを生かし、前回の実施内容に加えて、10 時から 12 時、14 時から 16 時の実施、血圧測定担当者の増員、大学院生による結果説明を追加した。参加者は、地域住民 31 名、学生 8 名、教職員 4 名であった。

実施後に学生、教職員での振り返りを行い、2 回開催することで混雑や煩雑さが避けられたため次回も同様の時間帯に開催する、来所して時間が経ってから血圧測定を実施した方が良いことから血圧測定の配置を変更する、今回使用した手順書をより精選することが決定した。

アンケートを実施した結果 31 名（回答率 100%）から回答を得た。回答者の概要は、男性 7 名（22.6%）、女性 23 名（74.2%）、70 歳代 17 名（54.8%）、60 歳代 5 名（16.1%）であた。体験会を知ったきっかけは、友人・知人の紹介 12 名（38.7%）、ポスター・地域の会合6名（19.4%）であった。体験会が「良かった」は 29 名（93.5%）、「未回答」1 名（3.2%）、「どちらとも言えない」1 名（3.2%）であった。意見としては、「定期的に行ってほしいです」、「学生さんの測定・対応はとても上手でした」という好評である意見が述べられた。一方で、「近くの近所にもチラシを入れてください」、「健康体操、栄養などの会をやってほしい」などの意見も示された。

次回は、2 月 15 日（日）に開催予定である。

b. コミュニティ・ヘルスケア実習による健康講座

＜12 月 13 日(土)＞

「がんばらなくてもできる！転倒予防のコツ伝授教室」を 13 時 30 分から 15 時に実施した。内容は、講義、体操、学生と地域住民との交流とした。参加者は 39 名（地域住民 23 名、学生 11 名、教職員 5 名）であった。

実施後に学生、教職員での振り返りを行い、講義も分かりやすく、交流の時間が楽しかったとの意見が多かったことが示された。また、参加者の声を知る意味で次回からアンケートを実施することが決定した。

＜1月 10 日（土）＞

「楽しくいきいき！健康体操教室。楽しみながら認知症予防！」を 13 時 30 分から 15 時に実施した。内容は、自己紹介、講義、健康体操、学生と地域住民との交流とした。参加者は 35 名（地域住民 21 名、学生 8 名、教職員 6 名）であった。

実施後に学生、教職員での振り返りを行い、音楽をかけながら体操を実施した際に声が聞こえにくかったので、次回からマイクを使用することが決定した。

アンケートを実施した結果 21 名（回答率 100%）から回答を得た。回答者の概要は、男性 1 名（4.8%）、女性 20 名（95.3%）、70 歳代 15 名（71.4%）、60 歳代 3 名（14.3%）、80 歳代 3 名（14.3%）であた。体験会を知ったきっかけは、地域の会合 10 名（47.6%）、ポスター9 名（42.9%）、友人・知人の紹介 5 名（23.8%）であった。体験会が「良かった」は 20 名（95.2%）、「どちらとも言えない」1 名（4.8%）であった。意見としては、「今後も参加したい」、「今日の機会と出会いをありがとう」という好評である意見が述べられた。一方で、「話のレベルをあげてほしい」、「頭脳的なこと、歌、認知症などをやってほしい」などの意見も示された。

＜2月 7 日（日）＞

フラダンス鑑賞会を 13 時 30 分から 15 時に実施した。内容は、フラダンスと健康、フラダンス鑑賞、学生と地域住民との交流とした。参加者は 31 名（地域住民 24 名、学生 2 名、教職員 5 名）であった。

実施後に学生、教職員での振り返りを行い、見る、一部を真似してみる、一緒に踊るなど変化ある内容にしたことが良かったこと、時間配分などを事前に詳細に詰めておくことが大事であることが意見としてあげられた。

② 評価

なごやか暮らしの保健室体験会は、骨密度、体組成、血圧、塩分味覚閾、結果説明、お薬相談、健康相談などを多様な分野の学生と教職員で準備・企画・実施・評価を連携して実施している。このことは、多職種連携の実施方法を体験的に学習できる機会になっていると考える。

コミュニティ・ヘルスケア実習による健康講座は、名古屋市立大学の大学院生が中心となって企画した健康講座をなごやか暮らしの保健室サポーターと教職員が協働で実施・評価を行っている。これは、地域住民の健康のニーズ把握、健康講座の企画・実施・評価方法を系統的に学習できることが特徴であり、多職種連携で実施する際の自己の役割と協働のあり方、連携に必要な情報共有のあり方なども継続的に体験学習できる機会になっている。

両事業とも、実施後は学生と教職員で振り返りを行い、内容の改善を行っている。その効果は、住民のアンケート結果からも評価でき、本事業が多職種連携チームにおいて、メンバーの一員としての行動の修得や健康支援の企画・実施・評価方法を継続的に体験学習する有効な

機会になっていると考える。

③ 今後の課題と対策

今年度は、9 月からの活動であった。住民からは定期的な「なごやか暮らしの保健室体験会」や「健康講座」の開催を求められている。そのため、2 ヶ月に 1 回程度の実施を目指し、地域住民のニーズに応えるとともに学生と教職員の連携も密にしながら、多職種連携チームの育成を行っていく。また、多職種連携が効果的に実施できていたかは、参加住民のアンケート、実施後の振り返りでの評価のみであるが、系統的に個人・チームの多職種連携能力の向上を評価する方法についても検討して必要があると考える。

8. 地域コミュニティを含め活動成果の社会への還元、HP の充実を含む積極的な広報活動

(1) マスコミ報道

① 医薬看系学生　地域で交流　名古屋　団地で高齢者の健康づくり(なごやかモデル)、毎日新聞 2015.1.8 朝刊

② スマホで徘徊者捜索訓練　大府市　機器開発の名工大と連携、新聞記事 2014.11.30 朝刊高齢者支援の新技術　緑区・鳴子団地で体験会(なごやかモデル)、中日新聞 2014.11.17 朝刊

③ 10 月号(中部版)Top Meeting 「なごやかモデル」 高齢者が住み慣れた土地で暮らせる社会作りをめざす(なごやかモデル)、地域経営とヘルスケア 2014.10.1

④ 大学生の力で地域を元気に！　名古屋市　地域包括ケアを担う人材育成(なごやかモデル　学生)、公明新聞 2014.7.13

⑤ 家で最期まで　地域包括ケアの今　下　人材育成　生活を知り、信頼築く(なごやかモデル)、中日新聞 2014.7.1 朝刊

⑥ 医療・介護で連携　市と名市大、人材育成へ(なごやかモデル)、読売新聞 2014.5.30 朝刊

⑦ 総合診療医要請で協力　名古屋市と名古屋市立大学(なごやかモデル)、日経新聞　2014.5.27 朝刊

⑧ 地域包括ケアで連携　名古屋市と名市大が協定(なごやかモデル)、中日新聞 2014.5.27 朝刊

⑨ 名古屋市立大学　名古屋市健康福祉局と協力(なごやかモデル)、NHK 名古屋、2014.5.26

⑩ TXNニュース　鳴子に拠点　地域医療者育成(なごやかモデル)、テレビ愛知、2014.5.24

⑪ news every 名古屋市立大学　高齢化に備えた医療を(なごやかモデル)、中京テレビ、2014.5.24

(2) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」ホームページ

https://nagoyaka-model.jp/

更新回数　59 回

(3)「なごやかモデル」AIP 未来医療研究会

エイジング・イン・プレイス(AIP)のための技術や運用システムに関する教育と研究、最新情報の交換、共同研究の立案ならびに地域への情報発信を活動の目的として、「なごやかモデル」プロジェクトのメンバーが中心となって、「なごやかモデル」AIP 未来医療研究会を発足し、これまでに、計 11 回開催し、AIP のための最新技術やビジネスモデルについての情報共有と討論を行った。

「なごやかモデル」AIP 未来医療研究会参加者数

	テーマ	開催日	参加者		
			セミナー室	TV 会議(名工大)	合計
第 1 回	見守り端末機『スマートホームケア』, 2014.7.28	2014/7/28	18	0	18
第 2 回	生体データモニタリングのための小型バイオセンサー「Health Patch」	2014/8/18	15	7	22
第 3 回	眠りを測る。眠りを見守る「ねむりモニター」	2014/8/25	18	5	23
第 4 回	ロボットスーツ「HAL」サイバーダイン	2014/9/29	19	9	28
第 5 回	高齢者行動分析機器「シルバーアナリティクスボックス」	2014/9/22	17	5	22
第 6 回	見守りあう安心な街づくりの実現に向けて	2014/10/6	16	2	18
第 7 回	スマートひかりタウン　ICT を活用した街づくり	2014/10/20	13	3	16
第 8 回	医業経営から見た在宅医療	2014/12/15	13	0	13
第 9 回	「コミュニケーションロボット PaPeRopetit	2014/10/27	19	4	23
第 10 回	在宅での福祉用具利用の実際,	2014/12/8	10	5	15
第 11 回	離床センサ兼行動モニタリングシステム	2015/1/19	14	2	16
第 12 回	難聴者との快適なコミュニケーションを実現する「COMUOON」	2015/2/16			0

(4) 発表論文(英文原著)

① Akatsu H, Nagafuchi S, Kurihara R, Okuda K, Kanesaka T, Ogawa N, Kanematsu T, Takasugi S, Yamaji T, Takami M, Yamamoto T, Ohara H, Maruyama M. Enhanced vaccination effect against influenza by prebiotics in elderly patients receiving enteral nutrition. Geriatr Gerontol Int. 2015 Jan 22. doi: 10.1111/ggi.12454. [Epub ahead of print]

② Inoue K, Tsuchiya H, Takayama T, Akatsu H, Hashizume Y, Yamamoto T, Matsukawa N, Toyo'oka T. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2015 Jan 1;974:24-34. doi: 10.1016/j.jchromb.2014.10.022. Epub 2014 Oct 27.

③ Yuki D, Sugiura Y, Zaima N, Akatsu H, Takei S, Yao I, Maesako M, Kinoshita A, Yamamoto T, Kon R, Sugiyama K, Setou M. DHA-PC and PSD-95 decrease after loss of synaptophysin and before neuronal loss in patients with Alzheimer's disease. Sci Rep. 2014 Nov 20;4:7130.

④ Sekiyama K, Waragai M, Akatsu H, Sugama S, Takenouchi T, Takamatsu Y, Fujita M, Sekigawa A, Rockenstein E, Inoue S, La Spada AR, Masliah E, Hashimoto M.　Disease-Modifying Effect of

Adiponectin in Model of α-Synucleinopathies. Ann Clin Transl Neurol. 2014 Jul 3;1(7):479-489.

⑤ Uhm KO, Kim MJ, Kawaguchi M, Akatsu H, Miura Y, Misumi S, Hida H, Choi EK, Kim YS, Michikawa M, Jung CG. ATBF1 is a Novel Amyloid-β Protein Precursor (AβPP) Binding Protein that Affects AβPP Expression. J Alzheimers Dis. 2014 Jul 30. [Epub ahead of print]

⑥ Miyashita A, Wen Y, Kitamura N, Matsubara E, Kawarabayashi T, Shoji M, Tomita N, Furukawa K, Arai H, Asada T, Harigaya Y, Ikeda M, Amari M, Hanyu H, Higuchi S, Nishizawa M, Suga M, Kawase Y, Akatsu H, Imagawa M, Hamaguchi T, Yamada M, Morihara T, Takeda M, Takao T, Nakata K, Sasaki K, Watanabe K, Nakashima K, Urakami K, Ooya T, Takahashi M, Yuzuriha T, Serikawa K, Yoshimoto S, Nakagawa R, Saito Y, Hatsuta H, Murayama S, Kakita A, Takahashi H, Yamaguchi H, Akazawa K, Kanazawa I, Ihara Y, Ikeuchi T, Kuwano R. Lack of Genetic Association Between TREM2 and Late-Onset Alzheimer's Disease in a Japanese Population. J Alzheimers Dis. 2014;41(4):1031-8

⑦ Satoh D, Ohte M, Maeda T, Nakamura K, Matsunaga T. Genes Cells. 2013 Dec;18(12):1053-69. doi: 10.1111/gtc.12101. Epub 2013 Oct 28.

⑧ Aomori T, Fujita Y, Obayashi K, Sato H, Kiyotani K, Nakamura K, Nakamura T, Yamamoto K. J Clin Pharm Ther. 2014 Jun;39(3):319-21. doi: 10.1111/jcpt.12135. Epub 2014 Feb 25.

⑨ Kondo Y, Iwao T, Yoshihashi S, Mimori K, Ogihara R, Nagata K, Kurose K, Saito M, Niwa T, Suzuki T, Miyata N, Ohmori S, Nakamura K, Matsunaga T. PLoS One. 2014 Aug 1;9(8):e104010. doi: 10.1371/journal.pone.0104010. eCollection 2014.

⑩ Kazunori Yamazaki, Dongjun Jin, Yoshifumi Morita, Noritaka Sato, Hiroyuki Ukai, Kenji Kozakai, Satoru Shibata, Shigenori Onishi, Akihiro Ito, Daisuke Mizuno, Tatsuya Hirai, Haruna Takeda, Yuka Sugiura, Development of Measurement System for Quantitative Evaluation of Skillfulness of Lower Extremities, Journal of Robotics, Networking and Artificial Life, Vol.1, No.2, pp.116-119 (2014.9)

(5) 論文発表(和文原著)

① Yu Qiyue, 田口亮, 保黒政大, 堀米秀嘉, 梅崎太造、ワンショットデジタルホログラフィによる赤血球の三次元計測、精密工学会誌,Vol.81,No.3,pp. (2015.3)

② 山崎一徳, 北山佳央里, 中嶋伸吾, 佐藤徳孝, 森田良文, 鵜飼裕之, 桜井亨, 久保田怜, 矢崎潔, 小森健司, 田口真哉, 把握動作における感覚運動統合機能の定量的評価のための計測デバイスの開発, 日本福祉工学会誌, Vol.16, No.1, pp.20-25(2014.5)

(6) 論文発表(総説)

① 鈴木 匡. 大学がプロデュースする薬剤師生涯研鑽「ファルマシア」日本薬学会機関紙 Vol.50 №6 pp548-552 (2014)

② 川出義浩. 文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業、地域と育む未来医療人「なごやかモデル」. 愛知県病院薬剤師会雑誌 Vol.42 No.1 P2-4 (2014)

③ 早野順一郎, 岩田彰, 平野孝行, 木村和哲, 渕田英津子:座談会愛知県名古屋市文部科学省未来医療研究人材育成拠点形成事業「なごやかモデル」高齢者が住みなれた土地で暮らせる社会作りをめざす, 地域経営とヘルスケア, 中部版, 2014.7

④ 渕田英津子:高齢者ケアを考える-認知症の理解と予防-, 一般社団法人名古屋工業会会報ごきそ, 2014/9-10.

(7) 著書

① 川出義浩. オピオイドスイッチングでの切り替え方は？Q&Aでわかるがん疼痛緩和ケア.じほう P.140-144 (2014)

② 河合優年編:看護実践のための心理学, メディカ出版:高齢者の介護と家族 認知症高齢者とその家族, 221-222, 2015

(8) 学会発表(国際)

① Masamichi Sakaguchi, Kazuki Imai, Kyohei Hayakawa: Development of High-Speed Thermal Display using Water Flow, Proc. 16th Int. Conf. Human-Computer Interaction (HCII2014), LNCS 8521, HIMI Part I, pp.233-240, 2014.6.29

② Kyohei Hayakawa, Kazuki Imai, Ryo Honaga, and Masamichi Sakaguchi: High-Speed Thermal Display System which Synchronized with the Image Using Water Flow, Asia Haptics 2014, A-06, 2014.11.19

③ Ryo Honaga, Kazuki Imai, Kyohei Hayakawa, Masamichi Sakaguchi: Development of Cold Sense Display Using Adjustment of Water Flow Volume, Asia Haptics 2014, C-17, 2014.11.20

④ Ayaka Yamada, Eishi Nakamura, Noritaka Sato, Yoshifumi Morita, Tadashi Ito, Yoshihito Sakai, Kazunori Yamazaki. Postural Sway Response to Local Vibratory Stimulation in Young, Middle-aged and Elderly People in Standing Position, International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2015 in Oita) , pp.47-51 (2015.1)

⑤ Kazunori Yamazaki, Donggun Kim, Yoshifumi Morita, Noritaka Sato, Hiroyuki Ukai, Tatsuya Hirai, Yuka Sugiura, Validity of a System to Measure Lower Extremity Function, Proceedings of the 8th Conference on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society of Korea 2014 (RESKO2014, Nov.7-8, 2014 in KOREC, Incheon, Korea), pp.86-88 (2014.11)

⑥ Keita Kamada, Noritaka Sato, Yoshifumi Morita, Hiroyuki Ukai, Kenji Komori, Shinya Taguchi, Screening Test Robot for Functional Decline of Shoulder Joint, Procs. of Int. Conf. on Control, Automation and Systems 2014 (ICCAS2014 in KINTEX, Gyeonggi-do, Korea), pp.594-598 (2014.10)

⑦ Qichang Qi, Yoshie Maeda, Kazunori Yamazaki, Noritaka Sato, Yoshifumi Morita, Hiroyuki Ukai and Kouji Sanaka, Improvement of Knee Flexion and Extension Simulation Accuracy in KneeRobo, Procs. of Int. Conf. on Control, Automation and Systems 2014 (ICCAS2014 in KINTEX, Gyeonggi-do, Korea),pp.603-606 (2014.10)

⑧ Sakai Masao, Noritaka Sato, Yoshifumi Morita, Position/Force Teaching System of Rehabilitation Support Robot for Repeated Resistance Training, Procs. of the SICE Annual Conference 2014 (September 9-12, 2014, Hokkaido University, Sapporo),pp.504-507 (2014.9)

⑨ Yoshifumi Morita, Jung-Tang Wang, Lin Han, Kazunori Yamazaki, Noritaka Sato, Hirofumi Tanabe, Analysis of therapist's guiding motion for standing up training of hemiplegic stroke patient, Procs. on the 8th international Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology (i-CREATe 2014, 20th - 22th Aug 2014 in Singapore), P1.2 (2014.8)

⑩ Yoshifumi Morita, Noritaka Sato, Hiroyuki Ukai, Hirofumi Tanabe, Toru Nagao, Rumi Tanemura,Yoshiaki Takagi, and Yoshitaka Aoki, Clinical Evaluation of Training System for Recovery of Motor Function after troke in Patients with Hemiplegia, Proceedings of the 2nd International Conference on NeuroRehabilitation (ICNR2014 in Aalborg, Denmark) pp,83-92 (2014.6)

⑪ Masamichi Sakaguchi, Kazuki Imai, Kyohei Hayakawa: Development of High-Speed Thermal Display using Water Flow, Proc. 16th Int. Conf. Human-Computer Interaction (HCII2014), LNCS 8521, HIMI Part I, pp.233-240 (2014.6.29).

(9) 学会発表(国内)

① 井之上浩一、赤津裕康、山本誠、土屋浩史、宮崎康人、松川則之、橋詰良夫、道川誠、山本孝之、豊岡利正、 質量分析を基盤とする認知症患者病理資料のノンターゲット多変量解析、第33回日本認知症学会学術集会 2014年11月29日~12月1日 パシフィコ横浜会議センター

② 原範和、菊池正隆、宮下哲典、初田裕幸、齊藤祐子、村山繁夫、赤津裕康、池内健、桑野良三、ヒト剖検脳を用いたアルツハイマー病関連マイクロRNAの解析、第33回日本認知症学会学術集会 2014年11月29日~12月1日 パシフィコ横浜会議センター

③ 赤津裕康、荒川和幸、田中 守、兼松孝好、難波大夫、大原弘隆、軟部組織石灰化、偽性腸閉塞がレイノー現象に先行して発症したCREST症候群の1例、日本内科学会東海支部主催 第224回東海地方会 2014年11月2日 名古屋国際会議場

④ 丹羽 篤、伊井裕一郎、松尾 皇、富本秀和、高瀬伸一、前田正幸、赤津裕康、橋詰良夫、3TMRIによる皮質微小梗塞の描出;xe vivo MRIと病理所見との直接比較、第6回日本神経病理学会 東海・北陸地方会 2014年9月27日 岐阜大学

⑤ 橋詰良夫、赤津裕康、堀 映、Ulegyria, statu marmoratus を示した脳性麻痺、第6回日本神経病理学会 東海・北陸地方会 2014年9月27日 岐阜大学

⑥ 由木 大、杉浦 悠毅、財満 信宏、赤津 裕康、橋詰良夫、山本孝之、近 亮、杉山 圭吉、瀬藤光利 アルツハイマー病患者大脳皮質のDHA-PC量はPSD95の減少と相関して低下する第57回 日本神経化学会大会 2014年9月29日～10月1日 奈良、奈良県文化会館

⑦ 赤津裕康、筒井陽仁、山本孝之、橋詰良夫、大原弘隆、豊岡利正、井之上浩一.アルツハイマー病脳での低分子代謝産物発現解析.日本基礎老化学会第37回大会 2014年6月27日あいち健康プラザ 健康科学館

⑧ 赤津裕康、山本孝之、大原弘隆アルツハイマー病とアンギオテンシン変換酵素遺伝子多型の関連(連続剖検脳症例を用いて)第56回日本老年医学会学術集会・総会 2014年6月12日～14日 福岡国際会議場

⑨ 丹羽篤、伊井裕一郎、高瀬伸一、前田正幸、赤津裕康、橋詰良夫、富本秀和剖検脳 ex vivo MRIの至適撮像条件;温度と組織コントラストの関連.第 55 回日本神経病理学会総会学術研究会 2014年6月5~6日 東京、学術総合センター

⑩ 赤津裕康、堀映、栗原リナ、斎藤友紀子、小川倫弘、兼坂岳志、谷口知恵、山本孝之、高尾昌樹、村山繁雄、橋詰良夫.福祉村Brain Bank 2013年次報告.第55回日本神経病理学会総会学術研究会 2014年6月5~6日 東京、学術総合センター

⑪ 小幡真希、村山繁雄、高尾昌樹、初田裕幸、隅蔵大幸、野上茜、内野彰子、中野雄太、赤津裕康、斎藤祐子、高齢者ブレインバンク 2013 年次報告.第 55 回日本神経病理学会総会学術研究会 2014年6月5~6日 東京、学術総合センター

⑫ 橋詰良夫、赤津裕康、堀映、斎藤友紀子.高齢者剖検例における脊髄病変の検討.第 55 回日本神経病理学会総会学術研究会 2014年6月5~6日 東京、学術総合センター

⑬ 明石惠子, 渕田英津子, 平岡翠:地域と育む未来医療人－超高齢社会におけるaging in placeの実現と多職種連携教育, 34回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014

⑭ 渕田英津子:介護施設で使用可能な認知症高齢者の行動・心理症状(BPSD)のケア指針の開発, 日本看護研究学会第40回学術集会, 奈良, 2014.

⑮ 明石惠子, 渕田英津子, :地域と育む未来医療人･超高齢社会におけるaging in placeの実現と多職種連携教育, 第34回日本看護科学学会, 名古屋, 2014.

⑯ 西本 昂平、竹尾 淳、早川 知道、岩田 彰. 地域課題解決のための集合知マップの作成情報処理学会 第131回情報システムと社会環境研究会 2015.3.16

⑰ 李珉求, 坂口正道. 鉋削り動作を対象とした位置と力の同時訓練装置の開発, 第 15 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2014), 2K1-1, pp.1620-1621, 2014.12.16

⑱ 西和田昌恭, 坂口正道:拡張現実を用いたバーチャルハンド錯覚システムの検証, 第 15 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2014), 1K1-3, pp.779-782 (2014.12.15)

⑲ 馬場健太郎, 坂口正道:視覚と触覚の同時提示により運動錯覚を誘発するボール回しシステムの開発, 第 15 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2014), 1K1-4, pp.783-784 (2014.12.15).

⑳ 坂口正道, 穂永涼, 今井和紀, 早川恭平:水の流量を利用した温度提示システムの開発に関する基礎研究, 第 19 回日本バーチャルリアリティ学会大会論文集, 32A-5, pp.448-449 (2014.9.19).

21 今井和紀, 早川恭平, 坂口正道:頸部への温度提示が人間に与える影響に関する研究, 第 19 回日本バーチャルリアリティ学会大会論文集, 32A-6, pp.450-453 (2014.9.19).

22 奥村 香保里 , 毛利 公美 , 白石 善明 , 岩田 彰. プライバシー情報を登録する利用者の安心感の要因に関する調査.情報処理学会論文誌 55(9), 2159-2167, 2014-09-15

23 奥村 香保里 , 毛利 公美 , 白石 善明 , 岩田 彰. 情報システム・サービスの利用者の安心感と納得感に関する調査.情報処理学会研究報告. CSEC, [コンピュータセキュリティ] 2014-CSEC-66(29), 1-8, 2014-06-26

24 坂口正道, 青山真士:拡張現実感を用いたバーチャルハンドイリュージョンシステムの開発. 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 2014 in Toyama(Robomech2014), 2A2-K03 (2014.5.27).

25 坂口正道, 清水俊介:柔軟シートを介在させたウェアラブルすべり触覚ディスプレイの開発, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 2014 in Toyama(Robomech2014), 3P2-A05 (2014.5.28).

26 青山哲也、都築宏文、マウリシオ・クグレ、岩田彰. サウンドウオッチャー方式による肺聴診音分析.電子情報通信学会技術研究報告. NC, ニューロコンピューティング 113(500), 171-176, 2014-03-10

27 佐々 昌之 , 竹尾 淳 , 矢口 隆明 , 岩田 彰. 在宅医療介護情報連携システム"スマイルネット"におけるセキュリティとユーザビリティ. 電子情報通信学会技術研究報告. LOIS, ライフインテリジェンスとオフィス情報システム 113(479), 143-148, 2014-02-28

28 伊奈 嵩紘 , 田中 悟志 , 石橋 豊 , 荒牧 勇 , 定藤 規弘 , 岩田 彰. 機能的MRIを用いた視聴覚刺激同期判断課題における非同期判断に関わる脳活動の検討. 日本感性工学会論文誌 13(1), 1-6, 2014

29 西本 昂平 , 桑原 英人 , 伊藤 俊一 , 三矢 勝司 , 岩田 彰. 地域コミュニティ活性化のための情報連携基盤システム"ブロックページ". 情報科学技術フォーラム講演論文集 12(4), 605-609, 2013-08-20

(10) 講演

① 早野順一郎. 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」. 教育講演. 第 60 回東海公衆衛生学会学術大会. 2014.7.19

② 早野順一郎. 健康寿命を延ばすコミュニティづくり.特別講演。知多厚生病院開院 50 周年記念. 2014.9.15

③ 早野順一郎. 健康寿命を延ばすコミュニティづくり. 名古屋学院大学創立 50 周年記念リハビリテーション学部フォーラム AIP社会の実現に向けて, 名古屋市, 2014

④ 早野順一郎. ホルター心電図ビッグデータ・プロジェクト ALLSTAR 研究から見えてきたもの.特別講演.第 34 回日本ホルター・ノンインベイシブ心電学研究会. 2014.6.7

⑤ 早野順一郎. 長時間心電図の地理的・時間的マッピングを用いた気象医学的リスクの可視化. 計測自動制御学会ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2014. 2014.9.19

⑥ 早野順一郎.「なごやかモデル」のご紹介. 講演. 鳴子地域福祉・文化交流会. 2014.11.30

⑦ 鈴木 匡. 静岡県立大学大学院特別講義 「地域医療に貢献する薬局薬剤師」 静岡県立大学 小講堂、2014.11.10

⑧ 明石惠子. AIP社会の実現に向けてー看護領域の取り組みー, 名古屋学院大学創立 50 周年記念リハビリテーション学部フォーラム AIP社会の実現に向けて, 名古屋市, 2014

⑨ 赤津裕康. 在宅医療の中での地域連携・教育・褥瘡管理の基本. 第8回日本褥瘡学会 在宅褥瘡セミナーin愛知. 特別講.演 2014 年 6 月 15 日

⑩ 赤津裕康.多職種連携における栄養士の役割. 緑区栄養士連絡会」平成 26 年度総会. 2014 年 6 月 21 日

⑪ 赤津裕康. 高齢者の栄養管理:腸内環境・免疫学的視点から. 第12回知多半島栄養サポートフォーラム.特別講演. 2014 年 7 月 5 日

⑫ 赤津裕康. これから市大で提供すべきクリニカルクラークシップ. パネラー. 2014 年度 医学教育指導者フォーラム.2014 年 11 月 8 日

⑬ 赤津裕康. 地域と育む未来医療人「なごやか」モデルの紹介. 第 31 回臨床神経内科研究会. 2014 年 12 月 6 日

⑭ 赤津裕康. 高齢者の特徴と在宅支援. 看護セミナー. 名市大病院看護部 高齢者看護推進プロジェクト. 2015 年 1 月 20 日

⑮ 赤津裕康. リサーチマインドを持った総合診療医の養成. 第二回合同公開フォーラム セッション2 拠点形成事業の進捗と展望. 2015 年 1 月 31 日

⑯ 赤津裕康. 認知症のすべてー臨床症状、神経病理、予防・治療薬開発の最前線、精神症状から介護まで. 名市大第一期オープンカレッジ第4回他の認知症 病理. 2014 年 6 月 27 日

⑰ 赤津裕康．健康寿命をのばすためにできること：コミュニティーヘルスケアについて学びましょう．名市大市民公開講座　第一講座：医学研究科．2014 年 11 月 22 日

⑱ 渕田英津子.在宅における認知症高齢者と薬，名古屋市立大学「学び直し講座」講師，2014/7/16

⑲ 渕田英津子．認知症高齢者の理解とケア．名古屋市立大学平成 26 年度第 1 期オープンカレッジ講師，2014/7/18

⑳ 渕田英津子．認知症高齢者のケアのあり方と課題．平成 26 年度日本医師会生涯教育講座，内科，　2014/9/10

以上

35

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマ B】
リサーチマインドを持った総合診療医の養成

地域と育む未来医療人
「なごやかモデル」

● **報告書(平成 26 年度)**

資料集

ずっと、自分らしくいられる街へ。
なごやかモデル

名古屋市立大学

連携:名古屋学院大学・名古屋工業大学

資料 1

平成 26 年度研究拠点形成費等補助金
（先進的医療イノベーション人材養成事業）

調　書

未来医療研究人材養成拠点形成事業
地域と育む未来医療人「なごやかモデル」

平成２６年度研究拠点形成費等補助金（先進的医療イノベーション人材養成事業）調書

本調書は、平成２６年度研究拠点形成費等補助金（先進的医療イノベーション人材養成事業）の交付（内定）を行うにあたり参考とするために提出していただくものであり、プログラムの申請書等における記載事項との整合性にも留意して記入して下さい。

１．大学名／設置者名	名古屋市立大学　／　公立大学法人名古屋市立大学 （名古屋学院大学・名古屋工業大学）
２．プログラム名	未来医療研究人材養成拠点形成事業
３．取組名称	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」
４．選定年度	平成２５年度
５．事業推進代表者／ 事業推進責任者	（所属部局・職名・氏名） 事業推進代表者　学長　　戸苅　創 事業推進責任者　大学院医学研究科・教授　早野　順一郎
６．事務担当者 内容等の問い合わせに適切に応対できる事務担当の方で、主担当、副担当を必ず１名ずつ記載して下さい。	主担当 （所属部局・職名・氏名） 医学部事務室・事務系職員・山本　郁美 ＴＥＬ　０５２－８５３－８０７８ ＦＡＸ　０５２－８４２－０８６３ E-mail　yamamoto-ikumi@sec.nagoya-cu.ac.jp 副担当 医学部事務室学務係・係長・飯田　博之 ＴＥＬ　０５２－８５３－８０７７ ＦＡＸ　０５２－８４２－０８６３ E-mail　iida-hiroyuki@sec.nagoya-cu.ac.jp

７．選定取組の概要（４００字以内）

本事業では、学生や若い人材が住民と協働しエイジング・イン・プレイス（AIP）コミュニティづくりに取り組む実践研修の場を、超高齢化の先行する名古屋市内最大の UR 団地に形成し、医・薬・看・リハビリ・工学の学部・研究科、大学病院が連携して、AIP 社会の医学・医療の発展と向上を担う人材を養成する。卒前教育、初期・後期研修、大学院２コースを含む５つのプログラムを開設し、一貫した多職種連携教育を通じて、AIP に必要な地域診断、地域再活性化から、ICT によるチーム在宅医療・包括ケアシステムの構築に至る総合的な課題解決能力を持った総合診療医、コミュニティ・ヘルスケア指導者、ICT 医工学の実践的リーダーを育てる。地域にコミュニティ・ヘルスケア教育研究センターを置き、教育指導、疫学や医工連携研究の指導、地域医療人のキャリア支援を行う。これにより質の高い AIP 社会の形成と後継育成に資する有能な人材を輩出する。

８．補助事業の目的・必要性

（１）全体

本補助事業の全体の目的は、質の高いエイジング・イン・プレイス（AIP）社会の実現に資するために、AIP のため医学・医療の発展とその質の保障を担う総合診療医、コミュニティ・ヘルスケア指導者、ICT 医工学の実践的リーダーの育成を推進することである。

今後、わが国で急速に進行することが予想される病院診療から在宅診療への医療ニーズのシフトを、単なる人口高齢化対策として終わらせるべきではなく、未来医療への発展的トレンドとして確立すべきと考える。そこで、この取り組みでは、多職種協働と ICT による保健・医療・福祉システムの構築能力、並びに、AIP コミュニティの質を保証するリサーチとエビデンスの発信能力の育成を目的とする医療人養成拠点を形成し、質の高い AIP 社会の各地における形成と後継の育成に貢献する有能な人材を輩出する。

（２）本年度

本補助事業の本年度の目的は、上記の教育プログラムの運用と内容の充実および人材養成拠点機能の確立である。教育プログラムの運営と内容の充実には、TV 会議システム等の機能を活かし、多職種連携教育のための大学間・学部間の連携と教員の教育機能の向上および地域参加型学習のための地域機関・組織との連携を図る。地域の人材養成拠点の機能の確立には、ICT 情報共有システムの活用による指導体制の確立、学生・研修者の地域での学習・研修・研究活動の定着・拡大と内容の充実とともに、コミュニティヘルスケア教育研究センターの暮らしの保健室、キャリア支援室を通じて学生・研修者と地域フィールドの住民の間のコミュニケーションを広げ、地域の健康づくりと医療人育成が連携したコミュニティを形成する。地域コミュニティを含め、活動成果の社会への還元を図る。

９．本年度の補助事業実施計画（選定された取組を実施するにあたってのスケジュールを記載して下さい。）

本年度の補助事業の目的を達成するため、

① ４月　大学と地域の連携のための協議会、説明会、研修会の開催
② ４月　事業の実施体制強化のための教職員の雇用と研修
③ ４月　コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの運用と改善
④ ４月　在宅医療・地域包括ケア研修、総合診療専門医養成プログラムの運用と改善
⑤ ４月　コミュニティ・ヘルスケア指導者、ICT 医工学実践的リーダー育成コースの運用と改善
⑥ ４月　教育機能の向上のための ICT 情報共有、遠隔カンファレンスシステムの改良
⑦ ５月　情報発信と収集のための学会への参加と他地域の視察
⑧ ８月　教育機能の強化のための訪問看護教育ステーションの整備
⑨ ８月　多職種協働研修の充実のための地域医療研修薬局の整備
⑩ ８月　コミュニティにおける AIP 状況の評価のための住民調査
⑪ １月　「なごやかモデル」事業成果還元シンポジウムの開催
⑫ ３月　事業成果の報告と評価のための報告書の作成と評価委員会の開催

１０．補助事業の内容（選定された取組の内容を具体的に記載して下さい。また、必ず、上記の実施計画と対応させるよう、箇条書きで記載して下さい。）

① 地域との連携強化のために、地域機関・組織との連携協議会、住民への説明会、多職種連携研修会を開催する。
② 本事業の運営と教育機能の強化のために、教職員を雇用し、研修を行う。
③ コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの実施と教育効果の改善のために、地域住民との交流促進のための広報活動、住民と学生の協働による地域活動や健康イベントの促進、HP の整備、必要な外部講師等の委嘱を行う。
④ 在宅医療・地域包括ケア研修、総合診療専門医養成プログラムの実施と教育効果の改善のために、学習・教育活動に必要な物品の配備、教育用ポータルサイトの整備、必要な外部講師の委嘱を行う。
⑤ コミュニティ・ヘルスケア指導者、ICT 医工学実践的リーダー育成コースの実施と教育効果の改善のために、コミュニティヘルスケア教育研究センターにおける研究環境の整備、大学院生の教育・研究活動に必要な物品の配備、必要な外部講師の委嘱を行う。
⑥ 学生の地域活動状況の管理、在宅医療・ケア実習における多職種間情報共有、在宅医療に関する研究支援のために、ICT 情報共有、遠隔カンファレンスシステムの機能、信頼性、利便性の向上を図る。
⑦ 情報発信と収集のために、教職員による学会・研究会・講演会等での発表と情報収集、他地域の事業の調査と視察を行う。
⑧ 訪問看護教育ステーションの設置のために、準備室を開設し、設置のための調査、人材の育成を行う。
⑨ 地域医療研修薬局の整備のために、地域の薬局を対象に研修薬局としての機能に関する研修会を開催する。
⑩ AIP のためのコミュニティのニーズを把握するために住民の調査を行う。
⑪ 事業の周知、他地域への活動の拡大のために、「なごやかモデル」事業成果還元シンポジウムを開催する。
⑫ 事業成果の報告と評価のために、報告書を作成し、評価委員会を開催する。

これらを通じて、AIP のための医学・医療の発展と向上を担う人材養成と、健康寿命の延伸のためのコミュニティづくりが連動するような未来医療研究人材養成拠点を形成することが、本年度の本補助事業の内容である。

１１．補助事業から得られる具体的な成果（具体的な成果を記載して下さい。また、必ず、上記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載して下さい。）

① 名古屋市との連携体制により、市の地域包括ケアシステムの構築過程と連動した実践的な人材育成が可能となる。また、地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、社会福祉協議会との連携による在宅医療多職種連携研修会では、今年度、地域の医師５名、歯科医師５名、薬剤師５名、看護師５名、保健師５名、理学療法士２名、作業療法士２名、言語聴覚士１名、神経心理士１名、歯科衛生士２名、管理栄養士１名、介護支援専門員３名、MSW2 名、社会福祉士３名、介護福祉士３名、行政職員２名、学生３名、研修医１名、大学院生１名を受け入れる。
② コミュニティヘルスケア教育研究センターに、地域療養医学特任教授、地域療養薬学特任准教授、地域療養生活看護学特任助教、地域リハビリテーション学特任講師、地域ヘルスケア工学特任教授および特任助教からなるコミュニティヘルスケア多職種連携教育チームが形成される。教職員の研修により本事業の業務遂行能力を向上することができる。
③ コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムでは、今年度、医学部 310 名、薬学部 80 名、看護学部 90 名、リハビリテーション学部 80 名の学生を受け入れる。1 年次のインタープロフェッショナル・ヘルスケア論では、27 の学部混成チームが、担当地域のコミュニティに入り、地域ニーズの発見と実際の課題の解決をテーマに学習する。2 年次のコミュニティヘルスケア論Ｉでは地域包括ケアの基礎を学び、3 年次は地域医療、在宅医療等に関する自主研究、5 年次は訪問看護同行実習、6 年次は選択制の総合診療臨床実習を行う。
④ 総合診療専門医養成プログラムでは、今年度、大学院生２名、後期研修医３名、一般医師３名を受け入れる。大学病院での総合診療研修とともに、地域コミュニティでの在宅医療チームに加わり、多職種連携在宅医療を研修する。
⑤ コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースでは、医学研究科 10 名、薬学研究科 10 名、看護学研究科５名、一般医師２名を、ＩＣ

Ｔ医工学の実践的リーダーの育成コースでは、エンジニア 8 名を受け入れる。今年度は地域包括ケアシステム学特論、緩和・終末期ケア学特論、総合認知症学特論、未来医療デザイン特論、医療 ICT 管理学特論、コミュニティ創成特論、コミュニティ・ヘルスケア実習を開講する。

⑥ ICT 情報共有と遠隔カンファレンスシステムの活用により、多職種連携および多機関連携のための情報共有および情報交換の実践教育、AIP を保障する医学研究のための生体情報および疫学情報の集積、大学間連携授業などが実現する。

⑦ 本事業の情報発信として、今年度は、30 報の論文・学会発表を行う。他の事業の調査と視察により、本事業の内容の向上と予測される課題への適切な対応が可能となる。

⑧ 教育・研修のための訪問看護教育ステーション設置のための調査、人材の育成のためのワーキンググループを形成する。訪問看護教育ステーションの設置により、多職種協働在宅医療の実習・研修機能が高まり、「暮らしの保健室」との連携によって相談から医療に至る地域包括ケアの実践的教育の効率と効果を高めることができる。

⑨ 地域の薬局を対象にカリキュラムプランニング等についての研修会を開催し薬局の教育機能を高めることで、コミュニティにおける多職種連携実践教育の効率と効果を高めることができる。

⑩ 地域住民の調査により、AIP コミュニティづくりの介入前の状態を把握し、生活実態、健康課題を数値化することで、本取り組みの実践教育・研修の内容が地域ニーズにフィットしたものとなり、AIP の実現のための効果的な活動と、介入効果の経時的な評価が可能となる。

⑪ 「なごやかモデル」事業成果還元シンポジウムの開催により、取り組みを市民、産・官・学各領域、マスコミ等に周知し、本事業に対する理解と協力および評価を得るとともに、他地域への普及を促進する。

⑫ 報告書の作成と評価委員会の開催により、取り組みの状況に対する評価結果の中で解決すべき課題が明らかとなり、それを反映した事業計画の修正、見直しを行う事で PDCA サイクルを形成し、事業の確実な推進が可能となる。

１２．補助対象経費の明細は（別紙１）へ記載。

１３．設備備品費補足表は（別紙１）へ記載。

１４．研究拠点形成費等補助金の配分状況

（単位：千円）

	申請額	補助金額		自己負担額
			うち共通分	
名古屋市立大学	121,610	121,610	36,319	0
名古屋学院大学	16,632	16,632	0	0
名古屋工業大学	53,058	53,058	25,072	0
計	191,300	191,300	61,367	0

※補助金額欄のうち共通分は、代表校に計上しているが、連携校を含めて共有される経費分を計上すること。

１５．参考資料

平成２７年度以降の補助事業実施計画（事業を実施するにあたってのスケジュールについて、【９．本年度の補助事業実施計画】と同様に記載）を記入してください。

【平成２７年度】

① 4 月　大学と地域の連携のための協議会、住民との意見交換会の開催
② 4 月　各教育プログラムとコースの実施と見直し
③ 7 月　教職員の雇用と教育能力向上のための研修(学会参加、他地域の視察)
④ 7 月　教育機能の強化のための訪問看護教育ステーションの整備
⑤ 7 月　教育機能の強化のための地域医療研修薬局の整備
⑥ 7 月　教育機能の強化のための CHC センターの拡充
⑦11 月　教育機能の向上のための ICT 情報共有、遠隔カンファレンスシステムの改良
⑧ 1 月　コミュニティにおける AIP 状況の評価のための住民調査
⑨ 1 月　市民公開シンポジウム「未来医療デザイン」の開催
⑩ 3 月　事業成果の報告・評価のための報告書の作成と評価委員会の開催

【平成２８年度】

① 4 月　大学と地域の連携のための協議会、住民との意見交換会の開催
② 4 月　各教育プログラムとコースの実施と見直し
③ 7 月　教職員の雇用と教育能力向上のための研修(学会参加、他地域の視察)
④ 7 月　教育機能の強化のための訪問看護教育ステーションの整備
⑤ 7 月　教育機能の強化のための地域医療研修薬局の整備
⑥ 7 月　CHC センター、「暮らしの保健室」の機能強化のための運営基盤の見直し
⑦11 月　教育機能の向上のための ICT 情報共有、遠隔カンファレンスシステムの改良
⑧ 1 月　コミュニティにおける AIP 状況の評価のための住民調査
⑨ 1 月　「なごやかモデル」事業成果還元シンポジウムの開催
⑩ 3 月　事業成果の報告と評価のための報告書の作成と評価委員会の開催、修了認定

【平成２９年度】

① 4 月　大学と地域の連携のための協議会、住民との意見交換会の開催
② 4 月　教育プログラムとコースの実施および継続のための見直し
③ 7 月　教職員の雇用と事業の強化・継続のための研修(学会参加、他地域の視察)
④ 7 月　教育機能の強化のための訪問看護教育ステーションの整備
⑤ 7 月　教育機能の強化のための地域医療研修薬局の整備
⑥ 7 月　CHC センター、「暮らしの保健室」の機能強化のための運営基盤の見直し
⑦ 11 月　教育機能の向上のための ICT 情報共有、遠隔カンファレンスシステムの改良
⑧　1 月　コミュニティにおける AIP 状況の評価のための住民調査
⑨　1 月　総括シンポジウム「地域と育む未来医療人『なごやかモデル』」の開催
⑩　3 月　事業総括のための報告書作成と評価委員会の開催、修了認定

資料２

インタープロフェッショナル・ヘルスケア論

医薬看連携地域参加型学習
Orientation 2014

別冊を参照

資料３

コミュニティ･ヘルスケア論

シラバス

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業･地域と育む未来医療人「なごやかモデル」

卒前教育プログラム

コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムについて

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業【地域と育む未来医療人「なごやかモデル」】では、住み慣れた土地で豊かに老いを迎えその人らしく暮らすことのできる社会づくり（Aging in Place:AIP）を支える医療人材育成のための学部教育プログラム＜コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム＞を医学部・看護学部・名古屋学院大学と連携して実施します。

卒業後、薬剤師として地域医療そしてチーム医療に貢献できる実践的な能力修得を目指す特別プログラムです。このプログラムは、大学院生を対象としたコミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースにつながるプログラムでもあります。

コースの概要

対象者	医師、薬剤師、看護師、理学療法士のいずれかの国家試験受験資格取得目的で大学に在籍する学生
養成すべき人材像	エイジング･イン･プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成する。
修了要件	本プログラム科目の必修科目 4 単位、選択科目 6 単位、合計 10 単位
履修科目 履修方法	＜必修科目＞ 1. インタープロフェッショナル･ヘルスケア論(2 単位：1 年次) 2. コミュニティ･ヘルスケア論Ⅰ(2 単位：2 年次) ＜選択科目＞ 1. コミュニティ･ヘルスケア論Ⅱ(2 単位：3 年次) 2. コミュニティ･ヘルスケア実習Ⅰ(IPE)(2 単位：5 年次) 3. コミュニティ･ヘルスケア実習Ⅱ(IPE)(2 単位：6 年次)

◆ **履修について**

1）名古屋市立大学薬学部では

・インタープロフェッショナル･ヘルスケア論

平成 26 年度からは教養教育科目「医薬看連携地域参加型学習」として履修する。

平成 25 年度の教養教育科目「医薬看連携早期体験学習」履修合格者は本科目単位を取得したとみなす。

下記４科目は　薬学科（選択科目）として履修する。

・コミュニティ･ヘルスケア論Ⅰ〔平成 26 年度開講〕

・コミュニティ･ヘルスケア論Ⅱ〔平成 27 年度から開講予定〕

・コミュニティ･ヘルスケア実習Ⅰ〔平成 28 年度から開講予定〕

・コミュニティ･ヘルスケア実習Ⅱ〔平成 28 年度から開講予定〕

2）講義はＴＶ会議システムを活用し、一定期間で集中講義を行います。

実習は鳴子地区に設置されたコミュニティ・ヘルスケア教育研究センターにて実施します。

3）本コースの修了要件（必修科目 4 単位、選択科目 6 単位、合計 10 単位）を満たした学生には、未来医療人材養成プロジェクト委員会による修了認定を経て修了証が交付されます。

履修登録・講義日程などは別途掲示等で連絡します。

詳しくは担当教員（平成 26 年度：臨床薬学教育研究センター　鈴木匡）に確認してください。

プログラム名	コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム	対象学生	医師、薬剤師、看護師、理学療法士のいずれかの国家試験受験資格取得目的で大学に在籍している学生
授業科目名	コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ		
担当教員	医療系学部・研究科連携教育委員会(AMEC) 地域療養医学特任教授 地域療養薬学特任准教授 地域療養生活看護学特任助教 非常勤講師	開講時期	2年次・通年(集中)
		単位数 必修・選択	2単位・必修
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 特に、超高齢社会の課題と地域における保健・医療・福祉サービス、チーム医療の基礎と実際、地域包括ケアの実際を教授する。		
学習到達目標	**GIO: 高齢者に対する病院と地域それぞれにおける保健・医療・福祉サービスの実際を知り、多職種協働とその連携のあり方を検討することができる。** SBO 1: 超高齢社会の課題を述べることができる。 SBO 2: 医師、薬剤師、看護師、理学療法士、ICT活用の視点から、高齢者に対する保健・医療・福祉サービスに対する役割を述べることができる。 SBO 3: チーム医療におけるコミュニケーションの重要性を述べることができる。 SBO 4: 高齢者に発生しやすい医療事故・ヒヤリ・ハットを知り、医療安全対策を考えることができる。 SBO 5: 高齢者で問題となりやすい倫理問題を知り、倫理的な対応のあり方を考えることができる。 SBO 6: 高齢入院患者における感染対策、栄養サポート、緩和ケアの実際を知ることができる。 SBO 7: 感染対策チームの役割と機能を説明できる。 SBO 8: 地域におけるヘルスプロモーション活動を説明できる。		
授業計画	第1回(赤津　)超高齢社会の課題(医療経済の問題を含む) 第2回(赤津　)高齢者に対する保健・医療・福祉サービス(1)医師の役割 第3回(川出　)高齢者に対する保健・医療・福祉サービス(2)薬剤師の役割 第4回(渕田　)高齢者に対する保健・医療・福祉サービス(3)看護師・保健師の役割 第5回(名学院)高齢者に対する保健・医療・福祉サービス(4)理学療法士の役割 第6回(名工大)高齢者に対する保健・医療・福祉サービス(5)ICTの活用 第7回(患者相談室)チーム医療の基礎(1)よいコミュニケーションとは 第8回(医療安全管理室)チーム医療の基礎(2)高齢者の医療安全対策 第9回(老人看護CNS)チーム医療の基礎(3)高齢者の倫理問題とその対応 第10回(感染対策チーム)チーム医療の実際(1)高齢者の感染対策 第11回(栄養サポートチーム)チーム医療の実際(2)高齢者の栄養サポート 第12回(緩和ケアチーム)チーム医療の実際(3)高齢者の緩和ケア 第13回(MSW)地域包括ケアの実際(1)病院の医療・福祉地域連携室の役割 第14回(瑞穂区保健所長)地域包括ケアの実際(2)地域における多職種協働・連携のあり方 第15回(赤津・川出・岡崎)まとめ		
評価方法	出席とレポート試験によって評価する		
テキスト			
履修上の 注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける(学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。 名古屋学院大学の学生は、3年次のゼミ学習として履修する。		
備考	「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ」「コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ」「コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅰ」「コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。		

プログラム名	コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム	対象学生	医師、薬剤師、看護師、理学療法士のいずれかの国家試験受験資格取得目的で大学に在籍している学生
授業科目名	コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅰ(IPE)		
担当教員	医療系学部・研究科連携教育委員会(AMEC) 地域療養医学特任教授 地域療養薬学特任准教授 地域療養生活看護学特任助教 非常勤講師	開講時期	4年次・通年(集中)
		単位数 必修・選択	2単位・選択
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。		
学習到達目標	**GIO: 高齢者個々のニーズを把握し、ニーズに応じた保健医療福祉サービスの活用を議論することができる。** SBO 1: 高齢者のニーズや思いを高齢者から直接学ぶ。 SBO 2: 生活現場の視点から保健・医療のニーズを学ぶ。 SBO 3: 副次的に医療・介護のニーズの伝達役を果たす。 SBO 4: 医療・福祉に関する住民相互の協力関係の構築に貢献できる。 SBO 5: 認知症予防や介護のためのコミュニティ・ヘルスプロモーション活動ができる。 SBO 6: Advance care planの作成、実施のための助言と支援ができる。		
授業計画	1.地域診断 　既存資料や聞き取り調査によって担当地域の保健医療福祉の実態を把握する 　調査用紙を使用して高齢者の健康調査を行う 2.高齢者のニーズ把握と課題解決 　高齢者との共生体験または高齢者家庭支援体験を行う 　いずれかを選択して、高齢者個人に実施する 　・認知症予防プログラム 　・Advance care plan 3.コミュニティ・ヘルスケア・ワークショップの開催 　上記の資料や体験をもとに、地域における多職種協働のあり方を議論する		
評価方法	レポート		
テキスト 参考文献			
履修上の 注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける(学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。		
備考	「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ」「コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ」「コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅰ」「コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。		

プログラム名	コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム	対象学生	医師、薬剤師、看護師、理学療法士のいずれかの国家試験受験資格取得目的で大学に在籍している学生
授業科目名	コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ		
担当教員	医療系学部・研究科連携教育委員会(AMEC) 地域療養医学特任教授 地域療養薬学特任准教授 地域療養生活看護学特任助教 地域ヘルスケア工学特任教授 地域ヘルスケア工学特任助教 非常勤講師	開講時期	3年次・通年(集中)
		単位数 必修・選択	2単位・選択
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 特に、医療・福祉情報通信技術(ICT)の基礎とその応用、高齢者との交流によって高齢者の生活と健康を理解する方法を教授する。		
学習到達目標	**GIO: AIPにおけるICTの活用とその留意点を議論することができる。** **高齢者がその人らしく暮らすための方法をみつけ、支援することができる。** SBO 1: 個人情報保護における専門職者の責務を認識し、個人情報を適切に管理することができる。 SBO 2: 医療・福祉情報ネットワークシステムの特徴と仕組みを説明できる。 SBO 3: 医療・介護ロボットの開発の現状を説明できる。 SBO 4: 地域住民との交流を通じて、地域の人や暮らしを肌で感じることができる。 SBO 5: 高齢者の生活と健康に関与するイベントの企画・実施・評価することができる。		
授業計画	第1回:個人情報保護における専門職者の責務、多職種協働における情報の共有と保護 第2回:医療・福祉情報ネットワークシステムにおける個人情報の管理方法 第3回:医療・福祉情報ネットワークシステムの仕組み 第4回:地域における医療・福祉情報通信技術(ICT)の活用 第5回:医療・介護ロボットの開発の現状 第6～9回:高齢者の人生についての「聞き書き」演習 対象;高齢者1名 方法;話しを聴き、書きとめて、高齢者個人の物語を作成する 第10～15回:コミュニティ・ヘルスプロモーション演習 対象;地域の高齢者 方法;グループによる高齢者の生活と健康に関与するイベントを企画する イベントを定期的に開催するためにグループ間の調整を行う イベントを実施し、その影響を評価する		
評価方法	高齢者の人生についての「聞き書き」プロダクト イベントレポート		
テキスト 参考文献			
履修上の 注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける(学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。		
備考	「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ」「コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ」「コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅰ」「コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。		

プログラム名	コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム	対象学生	医師、薬剤師、看護師、理学療法士のいずれかの国家試験受験資格取得目的で大学に在籍している学生
授業科目名	コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ(IPE)		
担当教員	医療系学部・研究科連携教育委員会(AMEC) 地域療養医学特任教授 地域療養薬学特任准教授 地域療養生活看護学特任助教 暮らしの保健室室長 非常勤講師	開講時期	4年次・通年(集中)
		単位数 必修・選択	2単位・選択
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。		
学習到達目標	**GIO:1名以上の利用者に対して、目指す資格に応じて訪問診療・訪問服薬指導・訪問看護・訪問リハビリテーションの必要性を説明できる。** SBO 1: 多職種協働プランによる在宅医療、地域包括ケアを指導下で実施できる。 SBO 2: 多職種協働の意義とあり方を認識し、効果的で権威勾配のない活動ができる。 SBO 3: 訪問診療の目的を理解し、指導下で基本的なケアができる。 SBO 4: 訪問看護の目的を理解し、指導下で基本的なケアができる。 SBO 5: 訪問服薬指導の目的を理解し、指導下で基本的な対応ができる。 SBO 6: 訪問歯科診療の目的を理解し、指導下で基本的な対応ができる。 SBO 7: 在宅リハビリテーションの目的を理解し、指導下で基本的な理学療法ができる。 SBO 8: ICTによる医療・福祉情報の共有とセキュリティ管理ができる。 SBO 9: ICTを活用し、在宅チーム医療のための情報共有と管理ができる。		
授業計画	1.大学・地域中核病院におけるチーム医療体験実習 地域連携室で退院支援の実際を学ぶ 栄養サポートチーム・緩和ケアチーム・感染対策チームの活動に参加する 2.訪問診療・訪問服薬指導・訪問看護・訪問リハビリテーションの同行実習 目指す資格に応じて、診療、服薬指導、生活支援、リハビリを選択する 患者を1名以上受け持ち、アセスメント・計画・実施・評価を行う 目指す資格以外の訪問を見学し、それぞれの専門職の役割を考える 3.地域リハビリテーション実習 健康増進教室・体操教室・デイサービスなどに参加する 4.「暮らしの保健室」相談対応実習 5.老人保健施設における施設型在宅医療実習		
評価方法	レポート		
テキスト 参考文献			
履修上の 注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける(学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。		
備考	「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ」「コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ」「コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅰ」「コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。		

資料４

H26 年度 TV 会議システム使用実績

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業・地域と育む未来医療人「なごやかモデル」

資料4　H26年度 TV会議システム使用実績

日付	開始時刻	終了時刻	内容	CHC	笠寺	名学大	名工大	緑区医師会	西部医療C	医学部2階	さくら講堂	看護学部	西棟1階	薬学部	大ホール	4階研修室	東部医療C	緑市民	みどり訪問	サーバ	蒲郡市民	足助病院	大同病院	名古屋記念	稲沢厚生病院	知多厚生	豊川市民	旭労災病院	福祉村病院	接続拠点数
2014/2/26	15:00	17:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明			○			○											○										3
2014/2/28	13:00	17:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明			○				◎										○										3
2014/3/6	15:30	17:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明									○	○							○										3
2014/3/6	9:00	12:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明												○					○										2
2014/3/10	13:00	15:30	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明											○						○										2
2014/3/10	9:00	12:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明													○				○										2
2014/3/17	15:30	17:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明		○															○										2
2014/3/17	13:00	15:30	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明																○	○										2
2014/3/19	9:00	12:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明								○									○										2
2014/3/19	13:00	15:30	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明	○																○										2
2014/3/20	17:00	19:30	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明				○													○										2
2014/3/20	13:00	17:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明															○		○										2
2014/3/24	9:00	12:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明					○												○										2
2014/3/26	9:00	12:00	複数拠点同時接続テスト				○		○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										13
2014/4/14	15:30	16:30	ネットワーク講義　地域包括ケア学習		◎					○																				2
2014/4/18	9:00	12:00	医薬看連携地域参加型学習(インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)								◎									○										2
2014/4/22	10:15	11:15	ネットワーク講義　地域包括ケア学習		◎					○																				2
2014/4/25	9:00	12:00	医薬看連携地域参加型学習(インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)								◎									○										2
2014/5/7	17:30	20:00	講義のリハーサル	○	○		○			◎		○	○																	6
2014/5/8	10:00	12:00	TV会議システム使用法説明	◎																○										2
2014/5/13	10:00	11:15	ネットワーク講義　地域包括ケア学習		◎					○																				2
2014/5/13	17:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○		○			◎				○		○	○			○										7
2014/5/15	11:49	12:03	テレビ会議システムが使用できるかテスト接続	◎																○										2
2014/5/15	18:00	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		○			◎				○																4
2014/5/20	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論							◎				○		○														3
2014/5/22	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		○			◎				○					○											5
2014/5/24	9:00	12:00	コミュニティ・ヘルスケア教育研究センター(CHCセンター)開所式	◎			○			○				○																4
2014/5/27	10:00	11:15	ネットワーク講義　地域包括ケア学習		◎					○																				2
2014/5/27	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○		○			○	○										6
2014/5/29	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論	○	○		○			◎									○											5
2014/5/31	13:00	14:30	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/5/31	14:40	16:10	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/5/31	16:30	18:00	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/6/3	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○				○	◎				○		○			○	○										7
2014/6/5	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		○			◎									○											4
2014/6/6	9:00	12:00	医薬看連携地域参加型学習(インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)								◎									○										2
2014/6/7	13:00	14:30	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/6/7	14:40	16:10	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/6/7	16:30	18:00	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/6/10	10:00	11:15	ネットワーク講義　地域包括ケア学習		◎					○																				2
2014/6/10	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○		○			○	○										6
2014/6/12	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		◎			○									○											4
2014/6/17	17:30	18:00	病院間連携打ち合わせ						○				◎				○													3
2014/6/17	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○					○	○										5
2014/6/19	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		◎			○																				3
2014/6/20	9:30	12:00	コミュニティ創成セミナー	◎																○										2
2014/6/24	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○		○			○	○										6
2014/6/26	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		◎			○									○											4
2014/6/30	15:30	17:00	ネットワーク講義　地域包括ケア学習		◎					○																				2
2014/7/1	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論						○	◎				○		○			○	○										6
2014/7/3	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		◎			○																				3
2014/7/5	13:00	14:30	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/7/5	14:40	16:10	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/7/7	13:00	14:30	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/7	14:40	16:10	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/8	13:00	14:30	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/8	14:40	16:10	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/8	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○		○			○	○										6
2014/7/9	13:00	14:30	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/9	14:40	16:10	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/10	13:00	16:10	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/10	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○							◎																		2
2014/7/11	10:40	12:10	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/11	13:00	14:30	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/11	14:40	16:10	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/12	13:00	14:30	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論							◎										○										2
2014/7/12	14:40	16:10	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論							◎										○										2
2014/7/14	9:00	10:30	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/14	10:40	12:10	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/14	13:00	14:30	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/15	14:40	16:10	なごやかモデル卒前教育プログラム：コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	◎								○								○										3
2014/7/15	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○					○	○										5
2014/7/17	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		○			◎									○											4
2014/7/18	9:00	12:00	医薬看連携地域参加型学習(インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)								◎									○										2
2014/7/19	13:00	14:30	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/7/19	14:40	16:10	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/7/19	16:30	18:00	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論									◎								○										2
2014/7/22	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○					○	○										5

資料4　H26年度 TV会議システム使用実績

2014/7/24	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		○			◎																				3
2014/7/25	20:30	21:30	在宅医療研究会					◎												○										2
2014/7/28	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会							◎										○										2
2014/7/29	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○					○	○										5
2014/7/31	13:00	14:30	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論							◎										○										2
2014/7/31	14:40	16:10	なごやかモデル指導者養成コース：地域包括ケアシステム学特論							◎										○										2
2014/7/31	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論				○			◎									○											3
2014/8/5	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○					○	○										5
2014/8/7	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		○			◎																				3
2014/8/18	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会				○			◎																				2
2014/8/25	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会				○			◎																				2
2014/9/2	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論		○					◎				○																3
2014/9/4	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論				◎			○																				2
2014/9/9	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：総合認知症学特論							◎				○					○	○										4
2014/9/11	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：未来医療デザイン特論		○		◎			○									○											4
2014/9/16	9:00	12:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明																	○				◎						2
2014/9/17	10:30	13:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明																	○		◎								2
2014/9/18	9:30	13:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明																	○							◎			2
2014/9/19	13:00	16:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明																	○						◎				2
2014/9/19	9:00	12:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明																	○			◎							2
2014/9/22	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会				○			◎																				2
2014/9/24	13:30	15:30	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明																	○	◎									2
2014/9/24	13:30	17:00	接続テスト含め、今後のTV会議システムの説明																	○	◎									2
2014/9/29	13:00	16:00	医薬看連携地域参加型学習（インタープロフェッショナル・ヘルスケア論）								◎									○										2
2014/9/29	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会				○			◎																				2
2014/10/1	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/10/6	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会				○			◎																				2
2014/10/7	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/10/8	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/10/14	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/10/15	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/10/20	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会				○			◎																				2
2014/10/21	10:00	10:30	複数拠点同時接続テスト						○	◎							○			○	○	○	○	○	○	○	○			11
2014/10/21	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/10/21	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○		○														4
2014/10/22	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/10/27	8:30	10:00	病院間連携打ち合わせ						○	◎							○													3
2014/10/28	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/10/28	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2014/10/29	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/11/4	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2014/11/5	14:40	16:10	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/11/5	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/11/11	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/11/11	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2014/11/12	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/11/18	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/11/18	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2014/11/19	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/11/19	18:15	18:45	化学療法勉強会						○	◎										○			○	○						5
2014/11/20	18:00	20:00	NCU Infection Seminar						○	◎							○			○	○	○			○	○	○			9
2014/11/25	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/11/25	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2014/11/26	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/11/28	20:30	21:30	在宅医療研究会					◎												○										2
2014/12/1	8:30	10:00	病院間連携打ち合わせ						○	◎							○													3
2014/12/2	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/12/2	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2014/12/3	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/12/8	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会				○			◎										○										3
2014/12/9	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/12/9	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2014/12/10	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/12/15	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会							◎										◎										2
2014/12/16	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2014/12/16	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2014/12/17	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2014/12/17	18:15	18:45	化学療法勉強会						○	◎										○			○	○						5
2015/1/6	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2015/1/6	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2015/1/7	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2015/1/13	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2015/1/13	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
2015/1/14	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：医療ICT管理学				◎									○														2
2015/1/15	18:00	20:00	NCU Infection Seminar						○	◎							○			○	○	○			○	○	○			9
2015/1/19	18:00	19:00	「なごやかモデル」AIP未来医療研究会				○			◎																				2
2015/1/20	16:20	17:50	なごやかモデル指導者養成コース：コミュニティ創成特論				◎			○																				2
2015/1/20	18:30	20:00	なごやかモデル指導者養成コース：緩和・終末期ケア学特論		○					◎				○																3
																														0
				21	45	2	55	3	12	86	7	29	4	32	2	25	8	2	22	81	5	4	4	4	3	4	4	0	0	

資料５

学部・研究科横断型教育プログラム
設置申請書・企画書

名古屋市立大学

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業・地域と育む未来医療人「なごやかモデル」